（別記様式７）

 　　　 年　　月　　日

学　　長　　殿

実験動物管理者

所属・職名：

氏　名：

　　　　年度　実験動物飼養保管状況報告書

琉球大学動物実験規則第２７条第２項の規定に基づき、下記のとおり報告します。

１．飼養保管施設の名称および承認番号

 医学部・附属動物実験施設 □

 熱生研・分子生命科学研究施設(1号館4F） □

 上記以外の飼養保管施設（飼育室） □

 （部局名およびスペース名称: 　　　承認番号: ）

２．飼養保管施設における飼養・保管および使用の情報　（調査年月日:　　　　　　　　　　　　　　)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 動物種 | 調査時点での飼育動物数 | 年度内における最大飼育動物数 | 年度内における最長連続飼育期間\*(2日～1年) | 年度での使用動物数（調査時飼育中の動物数を除く。死亡数、出荷数、学外搬出数等の合計） |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

\*飼育期間：　当該動物種を1個体以上飼養・保管していた期間

備考欄

|  |
| --- |
|  |

**別記様式7　記入要領**

**1. 飼養保管施設の名称および承認番号**

　該当箇所の□を変換して■としてください。複数の飼育室・実験室で構成されている、医学部、熱生研の2か所の飼養保管施設以外の場合は、部局名・スペース名称・承認番号を記入してください。

**２．飼養保管施設における飼養・保管および使用の情報**

施設・飼育室を複数の研究室（研究者）で使用していて、各研究室（各研究者）が動物飼育とその数の把握、記録を行っている場合は、各研究室の担当者に飼育動物種および数などの情報提供を求め、集計して記載してください。

**動物種**

動物種の記載例：　マウス、ラット、ウシ、ヤギ、シリケンイモリ、ウシガエル、ゼブラフィッシュ、など。必要に応じて、学名（属・種・亜種）や学名に対応した名称、品種名などを用いて記載してください。適宜、表の行数を変更して構いません。幼生・稚魚と成体で著しく数が異なる場合は、ゼブラフィッシュ（稚魚）、というように分けて記載してください。

**飼育動物数**

1) ここでの動物数は出生後、孵化後の動物数を指しますが、親マウスへの刺激を避けるために出生マウス数の確認を控える、孵化しているが稚魚が微小である、などの理由で、正確な数の確認が困難である場合がしばしばあります。動物種および飼育の特徴に合わせた、動物数の確認とその記載で構いません。また、多数の幼生や稚魚の場合は、概数で構いません。

2) 多数のケージや水槽で多数の動物を収容している施設・飼育室の場合、ケージ数・水槽数とケージ当たり・水槽当たりの平均的な収容動物数を基に、概算で記入しても構いません。

1,2について、動物数の確認・算出の方法を、備考欄に記載してください。例： 「生後2週齢以上のマウス、各ケージの動物数確認に基づく」　「幼生の数は概算値、成体の数は実際に確認した数」

**最長連続飼育期間**

同一個体をどの程度の期間飼育していたか、ではなく、特定の動物種の飼育をどの程度の期間続けていたか、を意味します。

**使用動物数（飼育中の動物を除く）**

出生後あるいは孵化後の飼育中に死亡した動物数、実験使用および処分のための安楽死処置によって死亡した動物数、そして学内での飼育後に（出荷や、野外の元の棲息地へのリリースなどで）学外に搬出した動物数の総和を記載してください。実験用マウス・ラットの飼養保管施設で、動物死体をまとめて廃棄処理に出していて、その死体数を集計している場合は、その数が、ほぼ使用動物数に相当します。飼育動物数の場合と同様に、飼育や使用の状況に合った使用動物数の判断や概数の記載をお願いします。また、備考欄にその説明をお願いします。

**3. 飼養保管施設に関する自己点検**

別記様式7\_飼養保管施設に関する自己点検.xlsxを用いて、自己点検票を準備してください。リスト選択と、自由記述の箇所があります。ファイル内の説明に従って記入してください。